**鑑賞活動部会　提案発表**

徳島市津田小学校　髙　橋　結　香

**１　はじめに**

本学級の児童（第3学年）は，毎週の図画工作科の時間を楽しみにしている。5月題材「ねん土ラ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ンドへようこそ」では，友達と対話をしながら自然と活動がつながったり，友達の表現等を見ることを通して，気付きや感じ取った思いを自分の表現に取り入れたりする姿が見受けられた。このように，「表現すること」と「見ること」は，児童の活動の過程で同時に起こっている。そして，「見ること」を通して，児童は，互いの「いいな」と思う部分を共有したり，認め合ったりしている。私は，本実践の対象である中学年の鑑賞活動では，特に「他者との関わりを通して，互いのよさや面白さを改めて感じ，さらに新たな考えに出合うことで自分の見方や感じ方を広げられるようになる」ことを大切にしたいと考えている。そこで，今回の提案発表では，「友達との関わりの中で互いの『いいな』が響き合う鑑賞活動」というテーマを設定し，実践に取り組むこととした。本実践では，「互いの『いいな』が響き合う」ために，温かい雰囲気の中で，感じ取った「形」や「色」，「イメージ」等を伝え合うことで，さまざまな「いいな」に出合わせたい。そのためには，まず教師が児童の思いに寄り添い，共感的に受けとめながら「いいな」と思うことを見付け，率先垂範して児童に伝えていくことが大切である。そこで，「互いの『いいな』が響き合う鑑賞活動」を実現するために，「教師の児童への働きかけをどうすればいいのか。」について，明らかにしたいと考え実践に取り組んだ。

**２　指導の実際**

1. 題材『色合い ひびき合い』

〈絵A表現（１）イ（２）イ　B鑑賞（１）ア　共通事項（１）ア（１）イ〉

①目標　ア　指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して，形や色の感じ，それらの組み合　　　わせによる感じ，明るさなどが分かる。

イ　形や色の感じ，それらの組み合わせによる感じなどを基に，自分のイメージをも　ちながら，少しずつ変化する色の造形的なよさや面白さについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を広げる。

ウ　色合いの変化を感じ取る学習活動に取り組み，形や色などに関わり楽しく豊かな　　　　生活を創造しようとする。

②実践内容

　　　第１次　色が混ざっていく一瞬の美しさを捉えて色づくりをする。・・・・・・・・・1時間

　　　　第２次　色カードを見たり，並べたりして色や形のよさや面白さを伝え合う。・・・・1時間

**３　結果と考察**

（１）事前に児童の姿を具体的に想定しておくことで指導のポイントを明確化できた

　　　本題材の指導の主なねらいは，友達との関わりの中で互いの『いいな』が響き合う鑑賞活動の基となる「思考力・判断力・表現力等の育成」である。そこで，事前に「評価規準」「評価規準の具体例」「想起される具体的な児童の姿」「想起した児童に対する教師の働きかけ」の４つの項目と「題材を手渡す上での留意点」から構成される自作の評価シート（以下，「評価シート」とする。）を活用し，指導のねらいを達成させるための指導のポイントを整理した。評価規準の内容を基に，想起される具体的な児童の姿へと変換したことで，「どのような場面で教師が働きかけるべきなのか」「導入における演示で留意すべきことは何か」といった指導のねらいに照らして活動を進めていくための指導のポイントを明確にすることができた。

（２）児童との対話の中で指導のねらいを引き出すことで，学び合う雰囲気をつくりだすことができた

導入では，教師は「何色を使おうかな。」「指をぐるぐる動かしたらどんなふうに色が混ざるかな？」と児童に問いかけながら，水彩絵の具を用いた色づくりをする様子を示した。教師の活動例を見ながら，児童は「うわあ。気持ちよさそう。」と活動に興味を示した。さらに，教師の「今，指をぐるぐるっとしたから…。」の問いかけに対して，「ツンツンしよう。」と児童も反応して，自分の思いを教師の表現活動に重ね始めた。教師は，そのような児童の思いや考えに対して，「お，ツンツンっていいな。」と共感的に受け止め，実際に指をツンツン動かして見せた。すると，「さっきと色の混ざり方が違う。」「うわあ。何か自分だけの模様みたい。」といったように，見える形や色のよさや面白さに気付いていた。そして，教師は，「ツンツンしたらどんなふうに色が変わっていく？」「指の動かし方によって色合いはどう？」「同じ色でも絵の具の量や塗り方が違うと見える感じは？」と，児童に注目して欲しい造形的な視点に焦点を当てながら繰り返し問いかけた。さらに，色づくりをやりたそうな児童に，みんなの前で，その児童なりの色づくりを紹介する時間を設けた。他の児童は，まるで自分が色づくりをしているかのように友達の行為や活動を見て「何か燃えているみたい。」「明るい感じがする。」と，色の感じ，形の感じに注目しながら「いいな」と思う部分を見つけ出した。このように，児童と対話しながら指導のねらいを示したことにより，児童が活動への見通しをもつとともに，互いの「いいな」を響き合わせるための学び合う雰囲気をつくりだすことができた。

（３）児童の活動等に教師が意図をもって働きかけ全体へ広げたことで，新たな見方や感じ方を広げることができた

図画工作科は，題材名を児童に提案した瞬間から，児童各々が，自分らしく発想や構想し，表現するため，指導のねらいに照らして，教師が児童に対してどのような意図をもって働きかけていくのかが重要である。教師から児童への働きかけについては，「教師の指導発話に関わる内容項目2017年」（名達英詔：十文字学園女子大学）に基づいて実践した。具体的な事例を示すと，色づくりの場面では，まず，「わあ，いろんな色ができたね。」や「お，ここの色合いがいいね。どうやってしたの？」，「こっちはくるくる。こっちは点々。面白いことを考えたね。」と児童の活動等に対して共感的に受け止めた。すると，「先生，見て。まさしくこれが虹や。」等の発言があった。この場面では，教師は，児童が自分の見方や感じ方等に自信がもてるよう，共感的に受け止めつつ，児童の活動等についてのよさや面白さの「価値の提示（表現や取組に対して教師の評価を示す。）」を意識した。そして，適宜，児童の活動の様子の画像や動画を見せながら，児童の活動等における価値を提示し，全体で共有したことで，「僕も同じような感じが出来たよ。」と，児童が色カードで見つけた自分の「よさ」や「面白さ」を実感しているようなつぶやきや発話も見受けられた。そして，児童が「色カードを並べること」へと意識が向き始めると，児童の思いや考えを見取るため，表現や取組について考えさせることを意識した。あるグループでは，全員の色カードを色合いごとに並べていた。そこで，教師は「どうして色カードをこんなふうに並べたの？」と問うと，一人の児童が「いろんな色があるけど，よく見ると似た色や全く違う色があって･･･。」といったように，色合いに注目していることが伺えた。そこで，教師は「なるほど。いろんな色があるね。」や「パっと見ると同じように見える色でもよく見ると少しずつ色が変化しているね。」，「面白いね。よく気付いたね。」と，共感的に受け止めつつ，児童が色の変化に気付いたことのよさや面白さを伝えた。しばらくグループで取り組む様子を見取っていると，一人の児童が突然，「なんかジェットコースターみたい。」とつぶやいた。そこで，教師が「どこからそう思ったの？」と問うと，児童は「え，例えば，ここから出発して，ここは暗い感じの色が集まっているから，トンネルとして，で，一瞬明るくなって『わー。』ってなった。」と返答した。同じグループの児童は，友達の考えに聞きながら深く頷いていた。このように，教師の個に対する関わりは，周りの児童にも広がり自分の見方や感じ方が広がるきっかけとなった。

**４　おわりに**

本題材では，評価規準を基に事前に具体的な児童の姿を想起したことで，指導のポイントが明確になり，教師の児童への働きかけを見出すことができた。一方で，児童の振り返りシートを見返すと，事前に想定した児童の姿は，実際の対話や活動の中で表れないことの方が多いとも感じた。そこで，互いの「いいな」が響き合うための活動の展開を工夫し，児童が活動を通して，自分の思いや願いを「形」や「色」で表現しながら，「新たな自分と出会える」授業づくりに向けて，今後も研究に努めていく。